平成28年度　公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価

《　評価の考え方　》
- 当財団の目標、運営方針及び事業活動方針にもとづいて行われる財団の業務や活動の全般を評価対象とする。
- 業務や活動は、本年度事業計画に記載された具体的取り組み等について、個々の事業の達成度合いをそれぞれの担当が評価する。
- 可能なものは数値目標を掲げ、それ以外の目標も評価しやすい具体的な表現を心がける。
- 達成度は右の4段階で評価し、平均値で表示する。
- 評価結果から成果と課題を抽出して共有し、具体的改善策を講じて財団運営及び組織活動の改善を図る。

達成度
4　高い成果が得られている(95%以上)
3　一定の成果が得られている(80%以上)
2　まだ課題がある(80%未満)
1　成果が得られていない(50%未満)

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）		達成度		担当	成果（〇）	課題（■）及び改善策（□）
(1)必要な図書、記録、資料の収集、保管、調査研究、公開展示及び利用に関する事業	①上杉家・米沢藩ゆかりの資料及び郷土作家作品の収集と調査研究を体系的に進める	歴史関連	米沢藩・上杉家ゆかりの資料の発掘と追跡に努める	2.0	2.1	学芸		
			上杉邦憲氏寄託資料の概要調査を70%まで進める	2.0				
			寄託資料や受入資料の調査を進め、資料目録を作成する	2.2			〇中条家文書目録のデータ化	■目録作成には多大の時間が必要
		美術関連	米沢・置賜ゆかりの作家及び作品の調査、情報収集を進める	2.0	2.1		〇展覧会の準備を契機としていままで不明だった作家の情報整理に着手。 〇未整理資料のピックアップ	■着手することでより深い調査が必要となるが時間不足により展示につなげられない。
			上杉本洛中洛外図屏風に関する情報の収集と整理に努める	2.3				
			上杉家能楽関連工芸品調査を進める	2.0				
		今年度開催する展覧会の展示資料の調査及び解読を計画的に行う		2.3	2.3			
		次年度以降開催予定展覧会の調査及び準備を計画的に進める		2.2				■間近の事業が優先され、次年度以降の準備を計画的に進めることが難しい。
		市の資料収集基本方針にもとづき資料の収集・充実に努める		2.3				
		郷土に関する出版物や行政資料等を広く収集する		3.0	3.0	郷土資料		■郷土資料の収集基準の明文化の必要
		南原地区の神社と堂宮の資料調査を継続し、完了する。		3.0				
	②地域の人々が郷土に誇りと愛着をもち、観光客に感動を呼ぶ魅力的な展示をめざす	企画展示	特別展「米沢中納言上杉景勝」 職員評価平均値	3.0	3.3	学芸		■調査研究の精度をあげる。
			入館見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数134%	
			企画展「生誕100年椿貞雄展」 職員評価平均値	2.7				
			入館見込数を上回る	3.0			〇目標に対する入場者数92.4%	
			企画展「時間旅行展」 職員評価平均値	3.0			〇体験型で初めてのジャンルの展覧会を開催した。	■案内スタッフの配置等運営上の課題
			入館見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数126%	
			特別展「伊達氏と上杉氏」 職員評価平均値	2.9				
			入館見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数116.1%	
			コレクション展「上杉鷹山と学びの時代」 職員評価平均値	3.1				
			入館見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数131.7%	
			企画展「大正期の米沢の美術」 職員評価平均値	2.9				
			入館見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数112.5%	
			評価を適時に行い成果や課題を明らかにする	2.8				■担当者による基準の相違 ■課題反映の難しさ
		常設展示	文華館「謙信を生んだ一族・長尾氏」を12のテーマで紹介する	4.0	2.9			
			リニューアルに向けて問題点や課題を整理する	1.8				□アンケート分析など課題把握のための具体的作業に着手する
			資料や設備・機器の修繕・更新を進め展示環境の維持に努める	4.0		総務		
		先人顕彰コーナー	「伊東忠太展」 職員評価平均値	3.0	3.2	郷土資料	〇上杉鷹山公と郷土の先人を顕彰する会、米沢有為会の協賛を得て開催	■積極的な宣伝に努める。
			「城下絵図展Ⅰ」 職員評価平均値	2.8				■先人顕彰コーナーの照度
			「大沼哲展」 職員評価平均値	3.2			〇寄贈資料を初公開し、業績を紹介した。	□実物展示の期間を制限、写真パネル等で対応
			「木彫展Ⅰ」 職員評価平均値	3.6				
			「城下絵図展Ⅱ」 職員評価平均値	3.0			〇初公開の城下絵図2点を公開	
			「木彫展Ⅱ」 職員評価平均値	3.6				
		郷土資料特集コーナー及び郷土資料コーナーの展示替えを2ヵ月毎に行う		3.3				

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度		担当	成果（〇）	課題（■）及び改善策（□）
	③収集した図書や資料等を広く利用に供し、相談に応じ、要望と期待に応える	当館の特性と利用者のニーズを反映した選書に努める	2.7	3.5	図書 郷土資料	〇リクエスト購入冊数948冊	■明確な選書基準
		利用者の求めに応じ、他館との相互貸借を円滑に行う	3.5			〇県外 19件借受、38冊貸出	■ニーズの把握方法の確立
		登録者数は図書館全館で3万5千人超をめざす	4.0				
		本館の年度貸出冊数は35万冊以上をめざす	4.0				
		自動車文庫「アタゴオル号」で市内69ヵ所に配本し、140日以上運行する	3.0				
		自動車文庫の年度貸出冊数は3万5千冊以上をめざす	4.0				■データベース化の方法確立
		各種のレファレンスや相談に丁寧に対応し、データベース化を進める	3.0			〇調査を要する123件のレファレンスを登録	■時間が不足している。
	④資料情報管理の一元化とアーカイブ化を進め、情報の発信と提供に努める	新規受入資料のデータベース登録100%をめざす	4.0	2.8	学芸	〇資料情報の登録は100%に近づいた。	
		新規受入資料のデジタル化進捗率100%をめざす	2.0				■デジタル化を進めるとともにすでに媒体化したものの更新作業が大きな課題。
		未受入資料及び寄贈・寄託資料の調査・受入作業を計画的に行う	2.4				■未整理古文書の累積
		資料の燻蒸、収蔵庫のクリーニング及びIPM管理を適切に行う	2.8				
		博物館資料と郷土資料のデータベース一元化を進める	2.8	2.5	学芸 郷土資料		■公開後は進捗少ない
		収蔵文化財総合データベース確定版を7月1日に公開する	4.0			〇予定通り公開開始	■登録情報の充実・更新。 ■未受入資料の選定と手続き促進
		収蔵文化財総合データベースの更新を持続する	2.0			〇資料登録が100%に近づいたことで公開資料も増加した。	■定期的には更新できていない
		デジタルライブラリー公開資料の翻刻掲載を計画的に進める	2.0			〇図書館サポータによる翻刻校正を1月から開始	■システムの改善 ■DB項目の一元化
		所蔵資料や作品の修繕・修復作業を計画的に進める	1.8			〇木彫修復、箱新調、粉本裏打ち等3件を実施	■優先順位が高くとも予算上不可能なものもある。
⑵教育・学術・文化施設との連携及び教育普及に関する事業	①市内外の図書館や教育、研究施設と連携し、知のネットワークの構築を進める	市民や関係機関とのネットワークを広げながら調査研究を推進する	2.3	2.6	学芸		
		大学や研究機関との協力や共同研究を進め、学芸員の力量を高める	2.8			〇共同研究委嘱、他館との共同開催展への参加	
		図書館協議会加盟館とネットワークを構築し情報や意見の交換に努める	3.0	3.3	図書		
		学校や文化施設、コミセン等と連携し、読書活動を推進する	3.0				
		ギャラリーにおいては米沢市芸術文化協会と密接に連携する	4.0				
	②家庭教育の向上や学校の学習活動の支援に力を注ぎ、子どもの読書活動を推進する	「米沢市子ども読書活動推進計画」を積極的に推進する	3.3	3.9	図書		
		ブックスタート事業により、7ヵ月児健康教室時に読み聞かせと絵本1冊を贈呈する	4.0			〇絵本1冊から2冊に変更した。	
		児童図書を充実し、「おはなしのへや」での読み聞かせの回数をふやす	3.3			〇サポーターと協同してのおはなしかいの開催。	
		図書館団体貸出制度の利用促進に努め、利用件数で前年度を上回る	4.0				
		市内小中学生読書感想画展を開催し、前年度の出品数を上回る	4.0			〇75点増加。	
		夏休みこども図書館てづくりのへやを2日間開催する	4.0				
		図書セットをつくり、3ヵ月単位で小学校に貸出を行う	4.0			〇10月に配本、1月に回収と配本を行った。	■紛失本への対応。図書の見直し。
		「アタゴオル号」による絵本読み聞かせを年4回開催する	4.0				
		高校生以下の希望者に、自己の読書履歴を記録する「読書通帳」を配付する	4.0			〇1月より乳幼児から作成が可能になった。	
		学習室の環境を快適に保ち、年度末までに6万人の利用をめざす	4.0				
	③日常的な地域学習の場となる多様なプログラムを用意し、学社連携を推進する	プレイショップは季節企画と造形体験を柱に展開し昨年度の入場者数を上回る	3.0	3.1	学芸	〇前年比91 %	
		ワークショップは「つくる」をテーマに、毎回定員の80%以上の申込数をめざす	2.0				
		「むかしむかしを聞こう」を年3回開催する	4.0			〇米沢とんと昔の会の協力により実施	■参加者が少ない　□図書館と連携
		チルドレンキュレーターズ育成プログラムを年12回実施する	4.0				
		米沢市中学生米沢チャレンジウィークを受け入れ、趣旨に沿って指導する	3.0				
		博物館実習とインターンシップ指導プログラムの充実を図る	2.8				
		ミュージアムスクールと出前授業を合わせて年15時間以上実施する	3.0				

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）		達成度		担当	成果（〇）	課題（■）及び改善策（□）
	④生涯学習施設また地域の交流拠点として、市民の学習と活動の機会を提供する	教育事業	特別展の理解深化を目的に年3回程度の講演会を開催する	4.0	3.7	学芸	〇調査を要するもの69件をデータベースに登録。	
			企画展等の会期中に年10回以上のギャラリートークを開催する	4.0				
			文華館では小テーマごとに計13回のコレクショントークを開催する	4.0				
			上杉家・米沢藩の歴史理解に資する映像ソフトを新規に制作する	3.5				
			レファレンスを内規に従って処理し、データベース化を進める	3.0				
			こどもふるさとれきしこうざを年2回開催する	4.0	3.9	図書 郷土資料	〇興譲小、西部小で開催 〇米沢藩の交通をテーマに3回開催 〇新館開館対応のため2月に2回開催 〇館蔵資料をテーマに3回開催	■初心者向けの講座の要望が多い
			ふるさと歴史講座を年3回開催する	4.0				
			古文書解読講座を年2回開催する	4.0				
			古典文学講座を年3回開催する	4.0				
			展示の理解深化を目的に講演会を開催する	4.0				
			市内小学校の来館・見学を実現し、利用法等の説明を行う	3.3				
		普及事業	上杉博物館年報（27年度版）と伝国の杜だより（年2回）を発行する	4.0	3.7	学芸	〇市内学校、市役所等に貸出を行った。	■貸出可能な作品が制限される。 □作品状態をこまめに確認し、点数を見直す。展覧会と連動した効果的な貸し出しを行う。
			所蔵作品を年2回、市内の公共施設に貸し出す	4.0				
			普及ミーティングを毎月開催しスタッフの資質向上をめざす	3.0				
			ホームページ、ブログ、フェイスブックの充実・更新に努める	3.3	3.3	総務		
			伝国の杜ポケットスケジュールを制作し広報に努める	4.0				
			有料・無料の広告媒体を積極的に活用して広報に努める	4.0				
			内覧会の広報に努め、1回あたり20名超の参加をめざす	3.0				
			中学生・高校生の「無料観覧証」の利用促進に努める	2.0				
			こどもの日、国際博物館の日及び文化の日の無料入館をPRする	3.3				
			図書館とギャラリーの利用の手引きを作成する	4.0	3.5	図書	※季刊のため、秋号からの刊行となった。	
			図書館ホームページの充実・更新に努める	3.0				
			「図書館だより」を年度内に3回発行する	4.0				
			読書週間図書館フェア期間の図書館入館者は6千人超をめざす	4.0				
			ギャラリーの展示内容に合わせ図書館に特集コーナーを設ける	2.5				
		施設貸与事業（博会議室）	貸出基準にもとづき適正に貸与する	3.3	3.2	舞台		
			金銭処理や利用実績の管理及び各種報告を適時適切に行う	3.7				
			利用者のニーズを把握し、前年度実績を上回る利用をめざす	2.7				■ホールと一体で利用増加を目指す。
		（駐車場）	金銭処理や利用実績の管理及び各種報告を適時適切に行う	4.0	3.7	総務	〇財団ホームページ上で告知	
			利用者のニーズを把握し、市と連携して利用促進に努める	3.3				
	⑤市民の経験や知識及びボランティアと協働し、各施設のサービスの充実に努める	サポーター運営（伝国）	「活動要綱」にもとづき登録数及び活動人数を増やす	3.0	3.2	サポ担	〇サポーター通信の定着	
			年間活動計画を策定し、サポーターの活動機会を広げる	3.2				
			「洛洛屏風」案内人を新たに5名程度養成する	2.0				
			サポーター通信を定期的に年4回発行する	4.0				
			よりよい活動に資するため館内及び館外研修を実施する	3.6				
		（図書館）	図書館サポーター等広くボランティアの参画・協力を求める	3.5	2.8	図書	〇63名登録。 〇講演会（全体研修）、修理の研修を開催。	■参加者の固定化 □平成29年度要綱を作成。全体会で配布 □定期的な学習会の開催
			図書館サポーター等ボランティアの活動マニュアルを作成する	1.0				
			ボランティアの資質と活動に資する研修会を開催する	4.0				
		（ギャラリー）	ボランティアが広く参画する機会を設ける	4.0	4.0			
			展示の企画や運営に市民の声を反映し内容の充実に努める	4.0				
		ファンクラブ事業	特典の周知や広報活動を強化し330人の会員登録をめざす	4.0	2.9	FC担	〇329人 〇山響ロビー交流会、「広重ビビッド鑑賞会」開催	□会員数は増えたが利用率は伸び悩んだ。 加入促進と共に広報・事業充実が不可欠。 ■ロビー交流会は会員限定にできなかった。 □事業内容の吟味
			ファンクラブ会報（年2回）及び各事業情報を適時に送付する	4.0				
			ファンクラブ会員限定事業を年2回開催する	2.0				
			博物館及びホール事業未利用会員を10%未満に減らす	2.0				
			さらに魅力あるクラブをめざし会員特典の見直しを進める	2.5				

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）		達成度		担当	成果（〇）	課題（■）及び改善策（□）
⑶芸術・文化活動の創造、支援及び鑑賞機会の提供に関する事業	①優れた作品や舞台芸術に親しむ機会を提供し、芸術・文化活動の創造気運を高める	県補助事業	Jazz Café Live①　職員評価平均値	3.3	3.5	舞台	〇目標に対する入場者数134%	
			入場見込数を上回る	4.0				
			Jazz Café Live②　職員評価平均値	3.3			〇目標に対する入場者数128%	
			入場見込数を上回る	4.0				
			親子でたのしむ音楽会　職員評価平均値	2.6			〇目標に対する入場者数103%	
			入場見込数を上回る	4.0				
		市共催事業（文化ホール）	「山形交響楽団ユアタウンコンサート」 職員評価平均値	2.5	3.5	舞台	〇能舞台上でのウェルカム演奏、交流会の開催	
			入場見込数を上回る	3.0			〇目標に対する入場者数88%	
			「Musical　Songs　Medley」 職員評価平均値	3.8				
			入場見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数131%	
			「東彩子ヴァイオリンコンサート」 職員評価平均値	3.2				
			入場見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数120%	
			「吹奏楽の日コンサート2016」 職員評価平均値	3.3				
			入場見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数110%	
			「カナディアン・ブラス」 職員評価平均値	3.1			〇公開クリニックによる出演者と市民の交流の場を設けた	■広報活動の不足、周知不足
			入場見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数114%	□HP、Facebookの都度更新の活発化
			能舞台移動を市民に一般公開する	4.0				
			よねざわ市民ミュージカル育成活動を支援する	3.7				
		市共催事業（文化会館）	「DRUM TAO 舞響」 職員評価平均値	3.2	3.1	舞台		
			入場見込数を上回る	4.0			〇目標に対する入場者数152%	
			（劇団ONEOR8新作公演） 職員評価平均値	3.1				
			入場見込数を上回る	2.0			〇目標に対する入場者数69%	
		ギャラリー	「よねざわアートNOW」 職員評価平均値	4.0	4.0	館長	〇入館者数 9,411名	□事業の概要書と広報計画書を提出する。
			入館見込数を上回る	4.0				
			「米沢の美術作家たち」 職員評価平均値	4.0			〇入館者数 2,593名	
			入館見込数を上回る	4.0				
			「ARTS MEET OKITAMA2017」 職員評価平均値	4.0			〇入館者数 2,494名	
			入館見込数を上回る	4.0				
			集客が見込め中心市街地のにぎわいにつながる企画展を開催する	4.0				
			オープンギャラリーの展示替えを年度内に3回行う	4.0				
	②充実した展示機能で新たな芸術活動にも対応し、市民の活動成果を広く公開する	市民の多様な芸術文化活動の発表の場を提供する		4.0	4.0	館長		
		市民の芸術文化活動の拠点として機能する		4.0				
		公平・公正を旨として運営し、80%以上の稼働率をめざす		4.0			〇稼働率 89.8%	
		市民ギャラリーの入場者は年間4万人超をめざす		4.0			〇入場者数 61,201名	
		体験学習室は50%以上の稼働率をめざす		4.0			〇稼働率 58.1%	
	③活動を楽しみ交流する場を提供し、次世代を担う子どもや若手芸術家を育成する	地元のアマチュア活動団体等に活躍・研鑽の場を提供する		3.0	3.5	舞台	〇自主事業への登用増加	
		山響楽団員等による市内の学校への訪問クリニックを実施する		4.0			〇須川展也氏による二中吹奏楽部へのクリニック 〇民間資金の活用	
		市民が芸術文化活動を楽しみ交流する場を提供する		4.0	4.0	館長		
		次世代を担う子どもや若手芸術家の育成を支援する		4.0				
	④能舞台を活用して、伝統芸能の継承・普及につながるプログラムを展開する	県補助事業	山形県能楽の祭典　職員評価平均値	3.0	2.8	舞台	〇マスメディアを使い取組を県内にPRした。	■能楽愛好家以外へのPR、集客
			入場見込数を上回る	2.0			〇目標に対する入場者数72%	□ワークショップや発表の場に招待してPRを強化する。
			能楽お囃子コンサート　職員評価平均値	3.0				
			入場見込数を上回る	2.0			〇目標に対する入場者数59%	
			能狂言を通して置賜・庄内の交流を促進し、演技の向上をめざす	3.0				
			狂言クラブでは年15回以上の稽古、年5回以上の発表を行う	4.0				

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度		担当	成果（〇）	課題（■）及び改善策（□）
	事業概要書及び広報計画書を適時に作成する		3.0	2.9	舞台		
	事業のチラシやポスターを適時に制作し広報活動を強化する		3.0				
	自主事業入場者へのアンケートを実施・集計し分析する		2.5				
	自主事業の職員評価シート項目を整理し適時に評価を行う		2.5				
	市民文化会館の機能を生かし、地域住民の文化的水準の向上に資する各種公演を開催する		3.5			〇地方公演の少ない舞台も招聘	
⑷歴史・芸術・文化活動拠点の運営に関する事業	①上杉家・米沢藩及び郷土作家研究の拠点として、広く開かれた施設をめざす	所蔵資料の解読、写真撮影及び目録作りを計画的に進める	2.3	3.2	学芸	〇未整理古文書の整理計画作成	■継続的な追加公開　■システムの改善
		所蔵資料の収蔵文化財総合データベース上での公開を継続して進める	2.7				
		資料の特別利用・貸出及び掲載許可は規則にもとづいて行う	3.4				
		年間2冊以上の企画展図録を編集・発行する	4.0			〇3冊の図録を発行	
		サポーター洛洛案内人による国宝屏風の説明を日常化する	2.7				
		年間10回程度、各種研修会の講師として成果を市民に還元する	4.0			〇研修会のほか、他館の講演会、ギャラリートーク等の講師を行った	
		古文書資料や郷土資料の整備を進め、市民や研究者の利用に供する	3.7	2.9	郷土資料	〇郷土資料閲覧室の複写資料の利用が多かった	
		貴重資料のデジタル化及びデジタルライブラリーの充実を図る	2.0			〇先人顕彰コーナーの絵図展で資料紹介シート4件を配布	■予算の確保
		「郷土資料の散歩道」を年4回発行し、特色ある郷土・文化を紹介する	3.0				
		ミュージアムショップ事業：商品の陳列・宣伝など、展覧会と連動した運営を行う	3.3	3.5	総務Ｓチーム	〇委託販売により売上収入を伸ばすことができた	
		展示に関連する在庫図録の販売を積極的に行う	3.7				
		新規商品の開発に取り組み、一つ以上製品化する	4.0			〇クリアファイル、一筆箋、ポストカードなどを新規に製作	
		利用者の利便性と販路拡大のためWebショップを充実する	3.3				
		受託商品の充実を図り、他館との委託販売にも積極的に取り組む	3.7			〇戦国時代展での商品受託・委託も行った	
		各種宣伝媒体を活用し、前年度比1割増の売上収入をめざす	4.0				
		売上金の処理や販売委託契約、在庫管理を確実に行う	2.3				■売掛品の把握　■レジシステムの活用
	②市民の伝統文化活動を支援するとともに、歴史・芸術・文化の情報発信に努める	芸術文化活動のための施設貸与事業（ギャラリー）：米沢市芸術文化協会と連携し、利用者に喜ばれる運営を行う	4.0	4.0			
		芸術文化の情報を発信し、新たな芸術の創造を支援する	4.0				
		（座文）：貸出基準にもとづき、公益性を保って適正に貸与する	4.0	3.4	総務		
		喜ばれる運営をめざし、利用件数・利用者数で前年度を上回る	2.5				■利用率の低下
		施設の管理を適切に行い、施設・設備の更新を計画的に進める	3.7				
		座の文化伝承館自主事業：3事業を開催し、地域の文化振興と歴史の紹介に努める	4.0	3.9	舞台	〇施設の特性を生かした事業を展開した。	
		第26回市民茶会への入場者200名以上をめざす	4.0			〇入場者212人	
		「二胡を楽しむ」の入場者60名以上をめざす	4.0			〇入場者67人	■設備の都合上開催時期が限定される。
		「たのしき郷土玩具の世界Ⅲ」展の入場者150名以上をめざす	4.0		学芸	〇入場者226人	
		サポーターとの協働を積極的に進める	3.7		サポ担		
	③利用者の声を集め反映する仕組みを整え、市民に開かれた運営をめざす	館内の表示やサインを正確で分かりやすいものに整備する	3.0	2.9	図書		
		清掃や環境美化に努め、清潔で快適な空間づくりをめざす	3.5				
		利用者の意図を理解した上で説明と対応を丁寧に行う	3.5				
		各種アンケート調査を実施・分析し、運営の改善に活かす	2.0				□平成29年度4月1日よりアンケート設置。
		市民の声を職員会議等で検討・共有し、来館者サービスに努める	2.5				
	④まちづくりネットワークと連携し、にぎわいと活力あるまちづくりに寄与する	市中心市街地活性化協議会等と連携してにぎわいづくりに貢献する	4.0	4.0	館長		
		「こまや」を活用し、地元商店や各種団体との共催事業を季節ごとに行う	4.0				
		ブックカフェの適切な運営により憩いの空間を提供する	4.0				
⑸財団の適正な運営に関する事業	①「公共施設」を念頭に、経営基盤の安定と利用者増及び収入の確保に努める	予算書、事業計画書及び決算書、事業報告書を期限内に作成する	4.0	3.8	総務		
		博物館入館料は収入見込み額を確保する	4.0				
		職員の勤務シフトを計画的に作成し、緊急時の職員配置も確実に行う	4.0				
		50万円を目標に寄附金受け入れ業務に積極的に取り組む	4.0			個人1件、企業団体2件　計475000円	
		ギャラリー、駐車場の使用料を適正に徴収し期限内に市に納付する	4.0				
		職員の勤務シフトを計画的に作成し、緊急時の職員配置も確実に行う	3.0		図書		■適正人数の把握　■事務時間確保 ■急な休みへの対応
		県補助金、市負担金及び文化ホール入場料等の事務処理を適正に行う	2.7	3.3	舞台		
		文化ホール自主事業入場者4千人超をめざす	4.0			実入場者3,993人（達成率99.83%）	

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度		担当	成果（〇）	課題（■）及び改善策（□）
		法令や関係協定及び財団の定款・諸規程にもとづき適正な管理を行う	3.0	2.7	事務局長		
		予算の執行及び財務管理を適正に行う	3.0				
		財団運営に必要な外部の研修会及び研究会等へ計画的に派遣する	2.0				
		博物館の利用者数（展示・教育普及事業の計）は前年度実績を上回る	2.0				
		伝国の杜の利用者総数で22万人を上回る	2.0				
		図書館・市民ギャラリーの利用者総数で27万人を上回る	4.0				
		市と密に連携し、新しく指定管理者となる3施設の円滑な管理運営に努める	3.0				
	②各施設個々の機能を十全に発揮するとともに、施設相互の適切な連携に努める	各施設の総合管理業務委託者と調整を密にし円滑な施設管理に努める	3.3	3.5	総務		
		ウェブサーバー及びメールサーバーの管理運営を適切に行う	3.7				
		市民ギャラリーへ貸し出す美術作品等の選定・管理を適切に行う	2.8	2.4	学芸		■連携・住み分けの整理
		博物館の美術系展覧会の第2会場として市民ギャラリー展示も検討する	2.0				■作品状態の細かなチェックと展示スパンの調整
		博物館制作図録と図書館発行書籍を相互に配備し販売する	4.0	3.7	総S・郷	〇連携し売上も好調	
		博物館の展覧会に合わせて関連図書の特集コーナー等を設ける	3.4		図・郷	〇展覧会にあわせ特集コーナーを設け、関連書籍を紹介したパスファインダーを作成、配布	
	③米沢・上杉の歴史と文化を発信し、文化及び観光の交流拠点をめざす	展覧会やホール自主事業で、上杉文化エリア懇話会会員との連携を促進する	3.0	3.6	総務		
		観光拠点の一つとして、米沢四季のまつりに積極的に参加する	4.0				
		施設内外の案内表示の修繕・更新及び環境の美化に努める	3.3				
		博物館無料入館の日の周知・広報に努め、前年度の入館数を上回る	4.0			〇H27年1898人　H28年1902人	
	④入館者と職員の安心・安全を第一に、施設設備の保守及び危機管理に取り組む	業務・事業の見直しを進め、時間外労働や多忙感の縮減に努める	3.0	3.0	事務局長		
		施設・設備の保全に努め、修理と更新を計画的に進める	3.0				
		財団定款や市民の求めに応じて情報の公開に努め、開かれた運営を行う	3.0				
		職員の健康診断及び健康保持に関する業務を適正に推進する	3.0				
		火災と地震を想定した避難訓練をそれぞれ年1回実施する	4.0	3.8	総務		
		マイナンバー等個人情報の保護に細心の注意をもって当たる	3.7				
		置賜の庭の環境整備及び行屋の維持管理に努力する	3.3				
		公用車及び除雪機の管理を適正に行う	4.0				
		新文化複合施設の火災時と地震時の避難マニュアルを作成する	4.0	3.8	図書 郷土資料	〇火災避難訓練（6/24・12/22）、地震避難訓練（3/29） 〇講習会を実施（6月）	
		火災と地震を想定した避難訓練をそれぞれ年1回実施する	4.0				
		利用者の個人情報は関係法令と財団規程にもとづき厳密に行う	3.3				
		職員の知識の向上に資するため、AED・救命救急講習会を開催する	4.0				
	⑤複数の内部評価・外部評価に取り組み、運営やサービスの改善に努める	財団運営の目標及び方針を明示し、内部評価システムを整備する	3.5	3.4	事務局長 総務	〇「観光産業ホスピタリティー力向上セミナー」、「外国人観光客受入セミナー」等、接客サービスにかかわる外部の研修会に参加した。	■学んだ内容の職員全体への報告と周知。同じレベルで情報共有することが難しい。
		複数の評価に取り組み事業やサービスの改善・向上に努める	3.5				
		新採研修や各種研修会を効果的に実施し職員の資質の向上をめざす	3.0				
		接遇マニュアルの更新を進め、接客サービスの向上に努める	2.5				
		伝国の杜運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	4.0				
		新文化施設の運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	4.0				

網掛け　は収益等事業